

1. 調査目的等

小・義務教育学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証を行うことを通して、学力向上に関する取組の改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

各学年の標準スコアの平均を50.0以上とする。

3. 指標にむけての取組

- 児童が学習の進め方を調整できる授業づくり
 - ・学びを子ども自ら管理し、進めることができる授業づくり
 - ・各教科における授業研究
- 学習を自己調整できる家庭学習の充実
 - ・うすい家庭共育ノート(家庭学習時間や内容のふり返り)
 - ・子ども自ら目標を設定して行う自学やチャレンジプリント
- 自己調整学習を取り入れた年間計画の作成
 - ・自己調整を取り入れた教材集の作成
 - ・嘉麻市の地域教材を活用した授業づくり
- PDCAサイクルを回す組織運営
 - ・検証サイクルの確立と役割の明確化
 - ・授業チェックリストや学び方スタンダードを活用した授業の改善
 - ・算数科におけるテストの結果の分析と授業の改善
- 自己調整学習に関する校内研修の運営
 - ・ワークショップやグループワークを取り入れた校内研修
 - ・毎月授業づくりについての目標設定

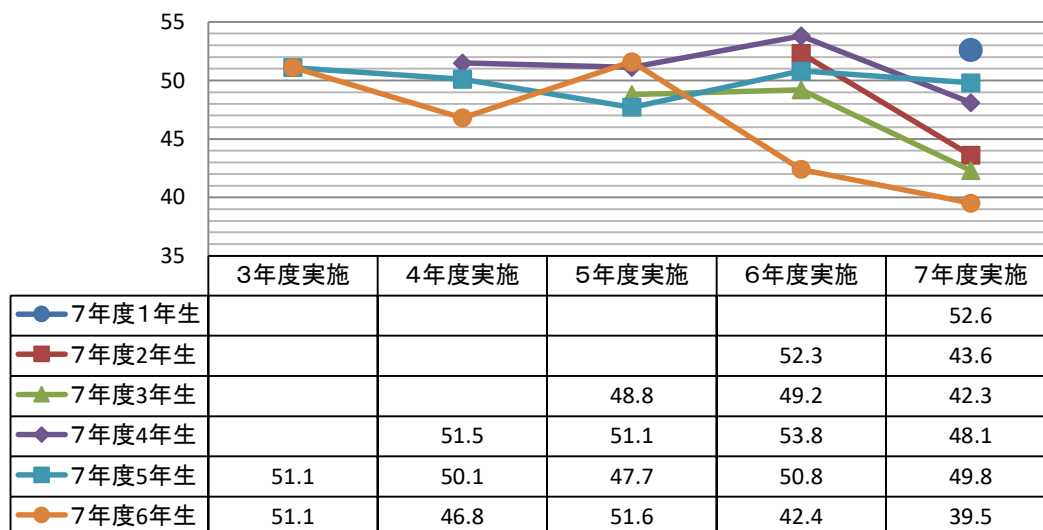
4. 調査結果

※学校平均(国語・算数)5年間の推移

(標準スコア:全国値の正答率を50とした時の換算値)

| 年度 | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | 7年度 |
|--------------------|------|------|------|------|------|
| 本校(A) | 48.9 | 49.7 | 49.7 | 49.3 | 46.0 |
| 嘉麻市(B) | 47.0 | 47.2 | 48.5 | 49.8 | 50.4 |
| (A)-(B) | 1.9 | 2.5 | 1.2 | -0.5 | -4.4 |
| 全国値との差 (A)-(50) | -1.1 | -0.3 | -0.3 | -0.7 | -4.0 |

各学年の標準スコアの推移



5. 各学校における分析

○1年生において、標準スコアが学校指標を上回ることができた。指導方法工夫改善教員と連携したきめ細やかな指導とMIMの指導の徹底による成果である。

○算数科において、単元構成を工夫しながら、担任と専科等の複数体制によって習熟度別分割授業を実施したり、形成的評価を行ったりしたことを通して、単元テストにおける目標値の通過率の向上を図ることができた。さらにテスト結果をもとに、焦点化した再指導や個別指導により、再テストにおいて、平均95%以上の児童を通過率達成につなげることができた。

○毎週火曜日に、同学年・近接学年による会議を設定し、算数科単元テストの目標値の通過率の検証を行い、他の職員と情報共有したことによって、授業改善につなげることができた。

●1年生以外のすべての学年において、標準スコアが学校指標を下回る結果となった。さらに、同一集団の経年比較では、昨年度の標準スコアより5ポイント以上下がった学年が3つあった。さらに、算数科において分割授業等複数体制で授業を行っているが、単元テスト等、短期的な成果しか出せていない。要因として、単元の内容定着にばかり目が行き、教科の特質に応じた思考力の育成ができていないことが考えられる。そのため、指導方法工夫改善教員が指導に関わる時間や量を増やしさらなる内容定着の充実を図るとともに、授業力を向上させる研修を実施し、授業の質を上げる努力を最大限に行う。

●家庭学習の習慣化については、日常的に家庭学習に取り組めていない児童がいるため、PTAの家庭教育支援事業「うすい家庭『共育』ノート」に取り組んでいき、習慣化できていない児童の固定化の解消を図っていきたい。また、「タブレットドリル」や「内容や量の自己選択制」を取り入れた家庭学習の工夫をするとともに、家庭学習の目的を「内容定着」「忘却防止」「習慣化」と明確にして評価改善しながら取組を進める。

6. 各学校における今後の取組

□ 児童が学習の進め方を調整できる授業づくり(継続)

・学びを子ども自ら管理し、進めることができる授業づくり(継続)

・各教科における、既習学習の学びなおしの視点を取り入れた単元構成の工夫とそれに向けた授業研究(改善)

□ 学習を自己選択・自己決定できる家庭学習の充実(改善)

・うすい家庭共育ノート(家庭学習時間や内容のふり返り)(継続)

・子ども自ら目標を設定して行う自学やチャレンジプリント(継続)

・タブレットドリルを活用した家庭学習の工夫(新規)

□ PDCAサイクルを回す前期学力向上検証委員会及び同学年会議を活用した組織運営(改善)

・検証サイクルの確立と役割の明確化に基づいた学力向上検証委員会の開催(改善)

・授業チェックリストや学び方スタンダードを活用した授業の改善(継続)

・算数科におけるテストの結果の分析と授業の改善(継続)

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎組織的に学力向上を図ることができるよう、特に次の3点について指導助言及び支援を行い、周知徹底を図る。

◆校内における学力向上検証委員会において単元テスト(全単元の80%において目標得点を達成できた児童が学級の80%以上になることを目指す)や各学力向上の取組について成果指標をもとに結果を検証し、授業づくりや学力向上の取組の更なる改善を図る。

◆「授業づくりの手順」や「学習指導過程の基本モデル」を教育委員会として示し、それらをもとにした授業改善を推奨する。そのために、校内研修等に指導主事を派遣し、具体的な指導助言や支援を行う。

◆小中一貫教育に基づき、組織的・計画的に内容を設定し、個に応じた課題の提示(AIDリルの活用等)を図ることにより、家庭学習の習慣化及び充実を図る。

※(10×学年+10)分以上の家庭学習の習慣化